Press Release

2016 年 10 月 25 日

日本イーライリリー株式会社
鳥居薬品株式会社

尋常性乾癬患者を取り巻く医療環境に関する中等症・重症患者と治療医の意識調査結果を発表

より効果のある治療を望む患者さんの 52%は、「生物学的製剤に関して知らない/どのようなものか分からない」と回答

日本イーライリリー株式会社（本社：兵庫県神戸市、代表取締役社長：パトリック・ジョンソン、以下「日本イーライリリー」）と鳥居薬品株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：髙木 正一郎、以下「鳥居薬品」）は、このたび、中等症・重症の尋常性乾癬の患者さん 144 名、尋常性乾癬の治療を行っている医師 159 名を対象に、両者の乾癬治療に対する認識や傾向について理解を深めることを目的に意識調査を実施いたしました。

その結果、乾癬治療における、治療目標やコミュニケーションについて、患者さんと医師の間にギャップが存在すること、また、患者さんにおいては、通院する施設によって治療環境が異なることが浮き彫りになりました。

【主な結果】

① 中等症・重症患者さんの 50%が「皮膚病変の完全な消失を達成すること」を本当は治療目標にしたいと思っている一方、同様の目標を掲げる医師は 10%未満

② 医師は、中等症・重症の患者さんの約 60%は「治療に満足している」と思っているが、実際に「治療に満足している」と回答した中等症・重症の患者さんは 33%

③ 中等症・重症患者さんの 39%が、「きちんと医師に治療目標を伝えられていない」と回答し、「多くの患者さんが治療目標を伝えていると思っている」と回答した医師も 40%に留まる

④ 中等症・重症患者さんの 91%、医師の 78%が「治療目標を共有することがより良い治療につながる」と考えている

⑤ 中等症・重症患者さんの 90%が「より効果のある治療を受けたい」と思っているが、そのうち生物学的製剤について「知らない/どのようなものか分からない」と答えた人は 52%

⑥ 生物学的製剤承認施設に通院する中等症・重症の患者さんのほうが、非承認施設に通院する中等症・重症の患者さんと比較して治療満足度は高い（59%：21%）が、通院時間に対しては不満度が高く（41%：22%）、通院時間がより長くかかっていた（30 分以上は 59 %：28 %、1 時間以上は 22%：5%）

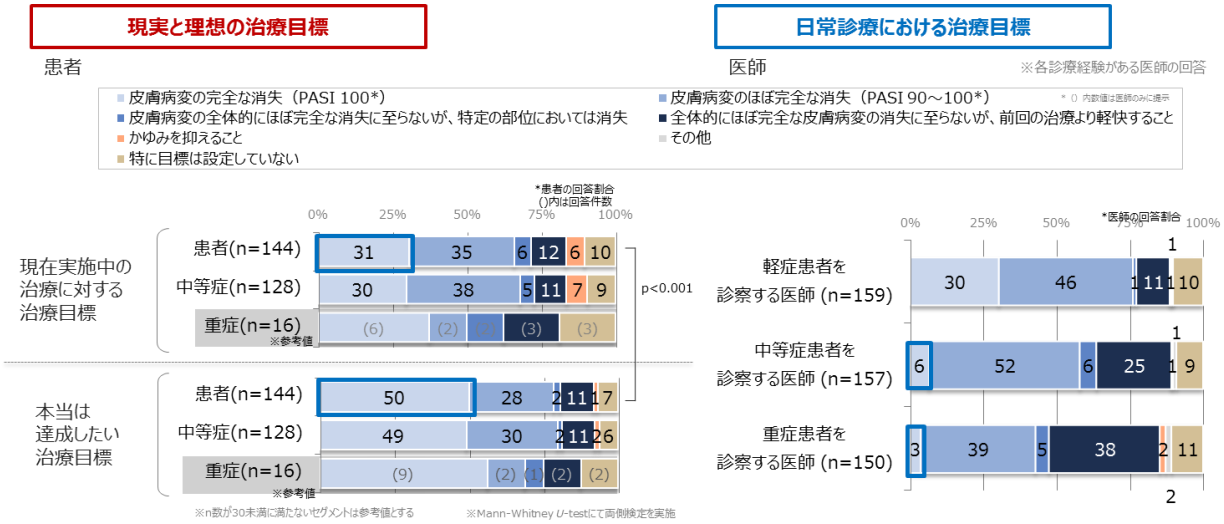
本調査を監修した東京医科大学皮膚科教授・大久保ゆかり先生は、この調査結果を受けて、次のように述べています。「本調査結果から、乾癬患者さんと医療者の間で、治療ゴールと日常診療におけるコミュニケーションにギャップがあることがわかりました。それぞれの患者さんに合った満足度の高い治療を実現するために、患者さんは医師に自分の治療目標を伝え、また医師は、患者さんに幅広い治療選択肢を提示するとともに、皮疹が残っている状態であれば、現状に満足しているかを必ず尋ねるようにします。医療者と患者さんが一緒に治療方針を決定していくためにコミュニケーションを図ることが大切です。」

また、同じく本調査を監修した日本最大の乾癬患者支援団体である日本乾癬患者連合会の柴崎弘之会長は、次のように述べています。「このたびの調査から、50%の中等症・重症の乾癬患者さんが皮膚病変の完全な消失を達成したいという治療目標を本当は持っていることが示されました。患者さんご自身が、疾患と治療オプションについて正しい知識を得て、自分の治療目標を医師に伝え話し合うことができると共に、また居住地域や生活環境に寄らず、患者さんが適切な治療にたどり着ける環境が整うことを願っています。」

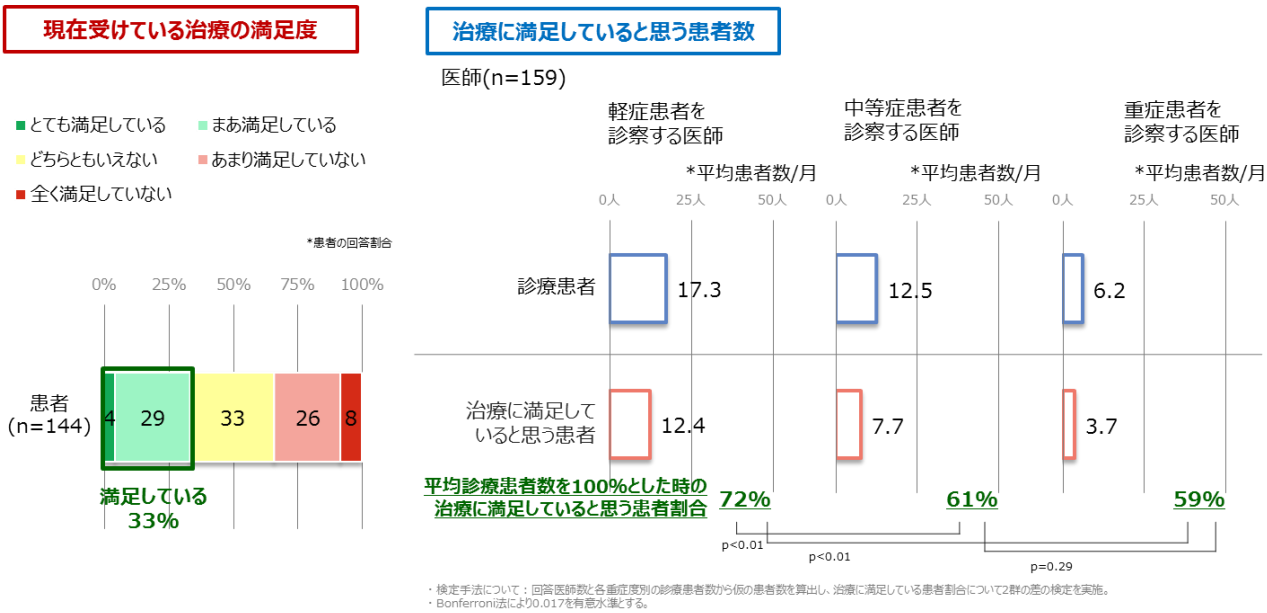
日本イーライリリーと鳥居薬品は、乾癬患者さんの症状の改善と QOL 向上を願い、乾癬患者さんを取り巻く環境の向上に貢献したいと考えています。

【結果抜粋】

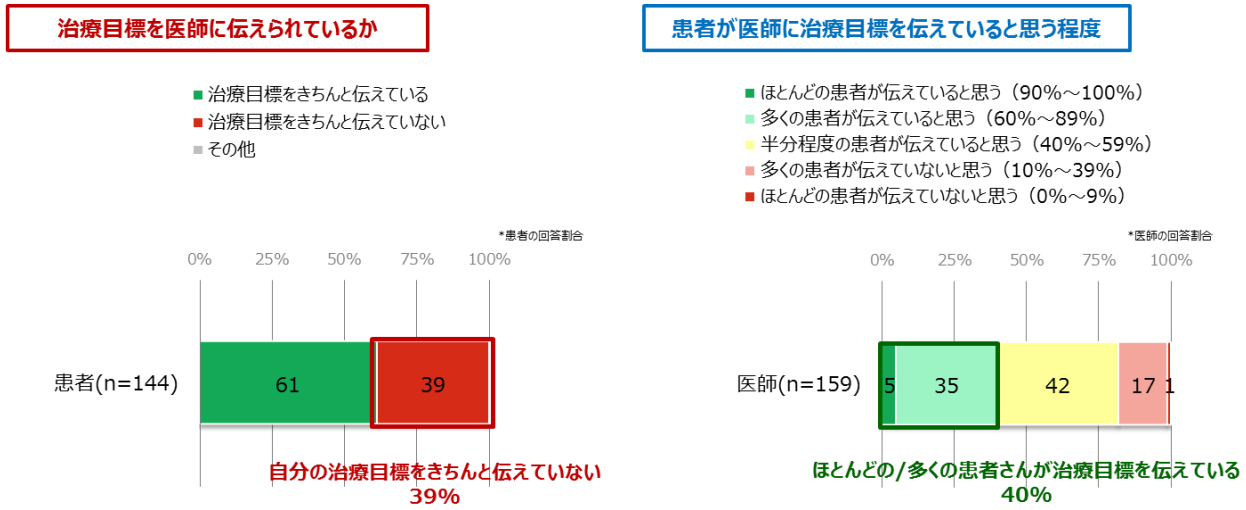
① 中等症・重症患者さんの 50%が「皮膚病変の完全な消失を達成すること」を本当は治療目標にしたいと思っている一方、同様の目標を掲げる医師は 10%未満



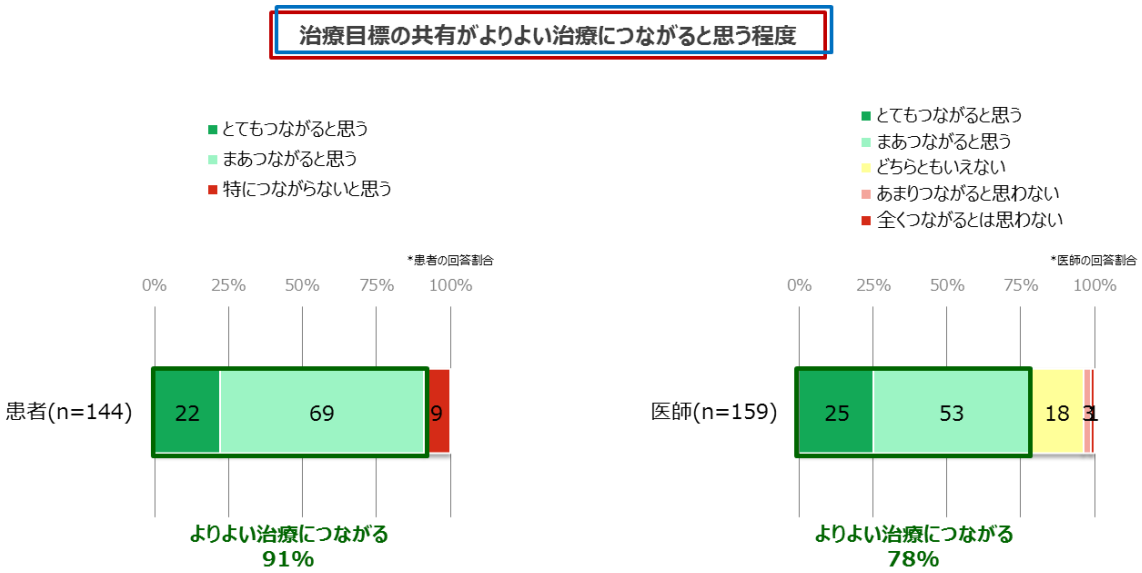
② 医師は、中等症・重症の患者さんの約 60%は「治療に満足している」と思っているが、実際に「治療に満足している」と回答した中等症・重症の患者さんは 33%



③　中等症・重症患者さんの 39%が、「きちんと医師に治療目標を伝えられていない」と回答し、「多くの患者さんが治療目標を伝えていると思っている」と回答した医師も 40%に留まる

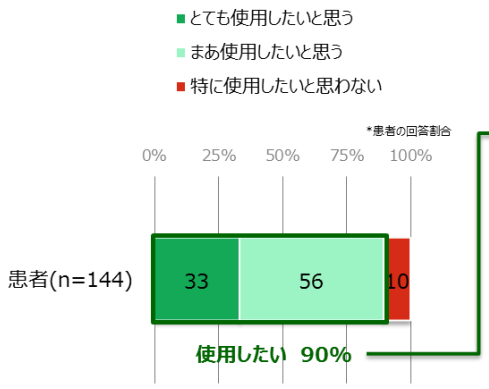


④　中等症・重症患者さんの 91%、医師の 78%が「治療目標を共有することがより良い治療につながる」と考えている

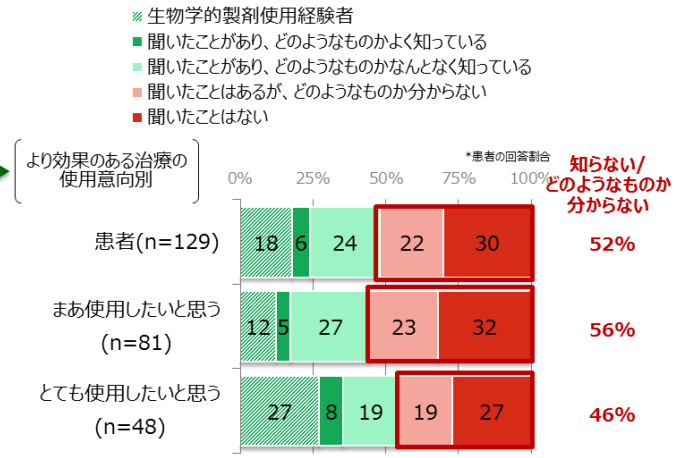


⑤　中等症・重症患者さんの 90%が「より効果のある治療を受けたい」と思っているが、そのうち生物学的製剤について「知らない/どのようなものか分からない」と答えた人は 52%

より効果のある治療に対する使用意向

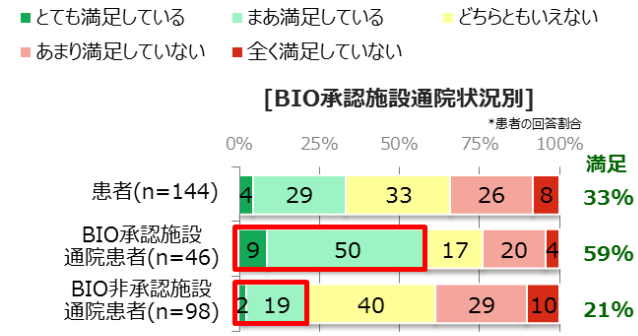


生物学的製剤の認知状況

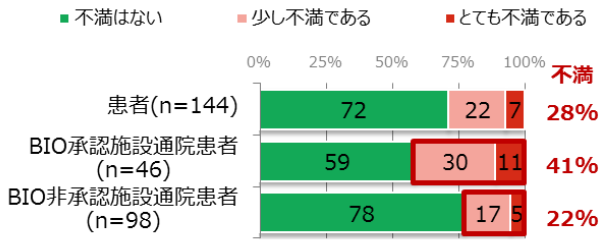


⑥　生物学的製剤承認施設に通院する中等症・重症の患者さんのほうが、非承認施設に通院する中等症・重症の患者さんと比較して治療満足度は高い（59%:21%）が、通院時間に対しては不満度が高く（41%:22%）、通院時間がより長くかかっていた（30 分以上は 59 %:28 %、1 時間以上は 22%:5%）

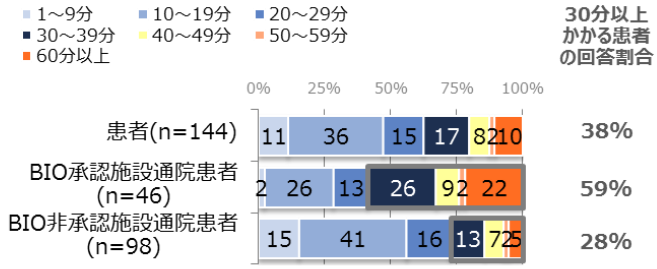
現在受けている治療の満足度



時間に対する不満度



通院時間（回答分布）



【 調 査 概 要 】

調 査 名: 乾癬患者さんと治療医による乾癬治療に関する意識調査
調査対象: ①定期的に医療機関に通院している罹病歴 2 年以上の中等症・重症の尋常性乾癬患者さん（尋常性乾癬以外の乾癬併発者は除く）
②尋常性乾癬を月に 10 人以上診察している皮膚科医
調査地域: 全国
調査方法: インターネット調査
調査時期: 2016 年 8 月
監 修: 東京医科大学 皮膚科 教授 大久保 ゆかり先生
日本乾癬患者連合会 会長 柴崎 弘之様

乾癬とは
乾癬は、皮膚に現れる慢性の非伝染性の自己免疫疾患です。これは、免疫システムが皮膚細胞の成長サイクルを加速させるよう間違ったシグナルを送ることによって発症します[i]。乾癬は、米国で750万人もの患者がいる最も一般的に見られる炎症性疾患で、全世界での罹患者は1億2,500万人[ii]、日本では43万人と推計されています[iii]。また、最近の報告[iv]に基づくと、日本における関節症性乾癬の罹患者は6万人と推計されます。乾癬は、体のあらゆる部位に発症し、糖尿病や心臓病等の他の重篤な疾患にも関連しています[v,vi]。乾癬で最もよく見られるのは、尋常性乾癬と呼ばれるもので、銀白色の鱗屑をともなった境界明瞭な盛り上がった紅斑が現れます。尋常性乾癬の約17%が中等症から重症といわれています[vii]。

日本イーライリリーについて
日本イーライリリー株式会社は、米国イーライリリー・アンド・カンパニーの子会社で、人々がより長く、より健康で、充実した生活を実現できるよう革新的な医薬品の開発・製造・輸入・販売を通じて日本の医療に貢献しています。統合失調症、うつ、双極性障害、注意欠如・多動症（AD/HD）、疼痛、がん（非小細胞肺がん、膵がん、胆道がん、悪性胸膜中皮腫、尿路上皮がん、乳がん、卵巣がん、悪性リンパ腫、胃がん）、糖尿病、成長障害、骨粗鬆症などの治療薬を提供しています。また、アルツハイマー型認知症、関節リウマチ、乾癬などの診断薬・治療薬の開発を行っています。詳細はウェブサイトをご覧ください。http://www.lilly.co.jp

鳥居薬品株式会社について
鳥居薬品は、「世界に通用する医薬品を通じて、お客様、株主、社会、社員に対する責任を果たすとともに、人々の健康に貢献する」ことを企業ミッションとし、「腎・透析領域」、「HIV 領域」、「アレルゲン領域」、「皮膚疾患領域」を重点領域と位置付けております。
JT（日本たばこ産業株式会社）グループの一員であり、新規化合物の研究開発機能は JT に集中し、製造・販売の各機能は鳥居薬品に統合するという機能分担により JT と連携しています。また、また、導入活動についても独自の活動に加え、JT と連携することにより、優れた医薬品の導入を進めています。詳細はウェブサイトをご覧ください。http://www.torii.co.jp/

---

[i] National Psoriasis Foundation®, File, Communications, Psoriasis, http://www.psoriasis.org/file/communications---all-documents/MediaKit.pdf (Accessed August 20, 2014)
[ii] 同上
[iii] Kubota K. et al. BMJ Open. 2015 Jan 14;5(1):e006450.
[iv] Ohara Y. Et al. J Rheumatol. 2015; 42:8;1439-1442.
[v] Rapp SR. et al. J Am Acad Dermatol. 1999;41:401-407.
[vi] Kurd SK. et al. Arch Dermatol. 2010;146(8);891-895.
[vii] About psoriasis. National Psoriasis Foundation website. https://www.psoriasis.org/about-psoriasis. Accessed March 22, 2016.